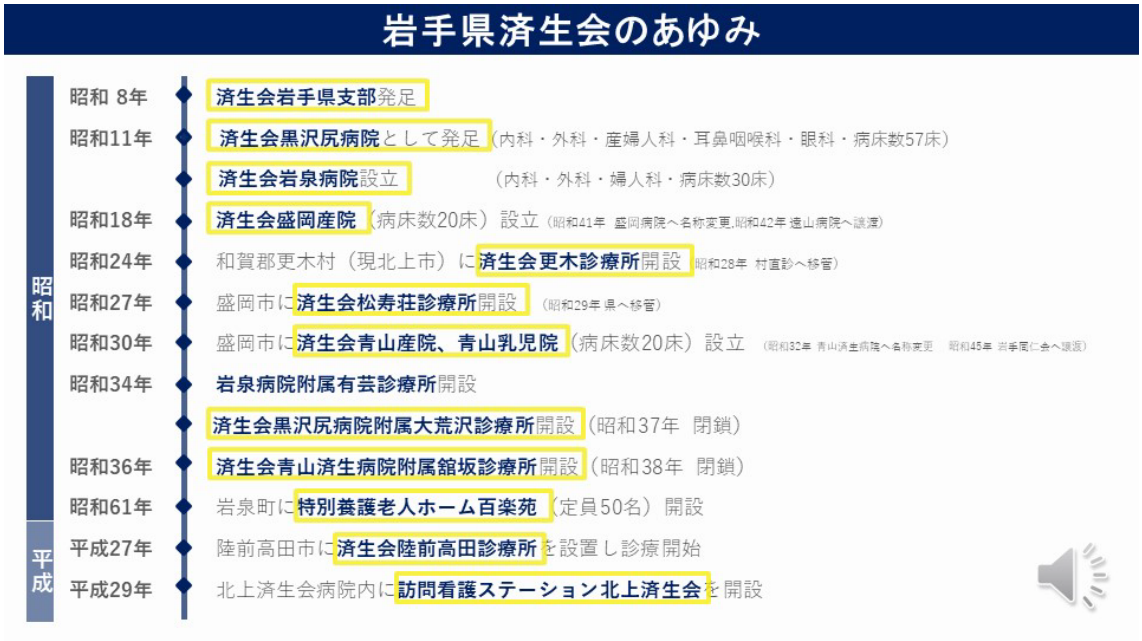
【北上市を映像で紹介】

「岩手県済生会のあゆみとデータで見る“いわて北上”」

岩手県済生会は現在北上市、陸前高田市、および岩泉町において病院 2 カ所、診療所 7 カ所、特別養護老人ホーム 1 カ所、訪問看護ステーション 1 カ所の合計 11 施設を運営しております。

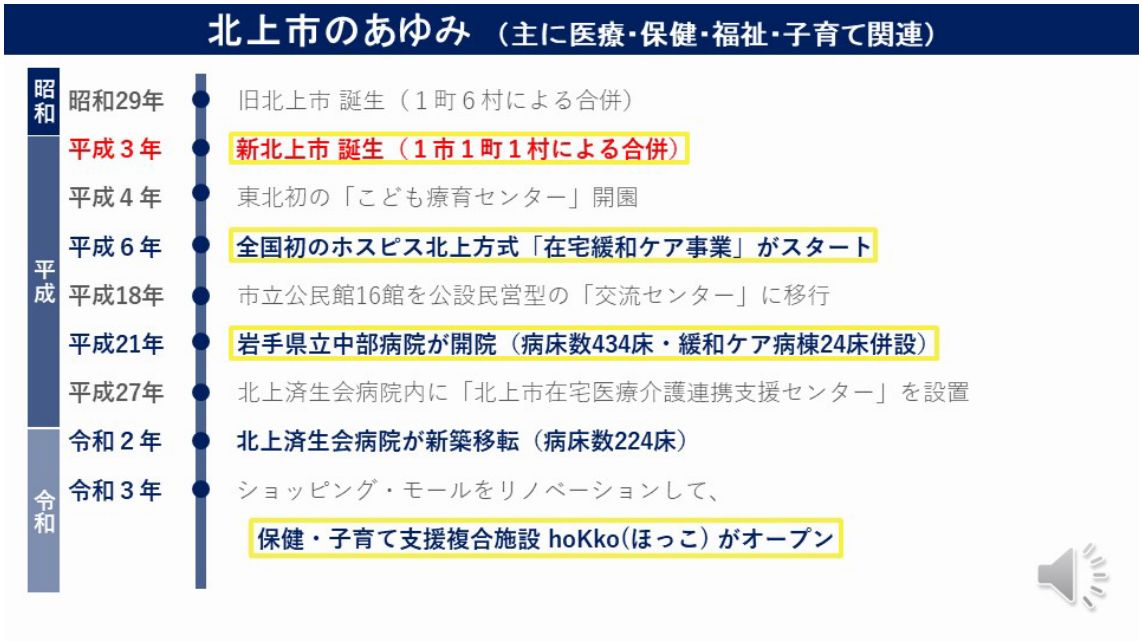


岩手県済生会は昭和 8 年に発足し、県内の無医村地域への巡回診療や出張診療、貧困者への無料診療を開始したことに始まります。そして昭和 11 年に現在の北上済生会病院の前身である済生会黒沢尻病院を開設しました。また同じく昭和 11 年に、当時町に開業医が 1 人と医療機関に恵まれていなかった岩泉町に岩泉病院を開設します。以降、昭和 30 年代までにかけて盛岡市内に産院や乳児院を、北上市内に診療所を相次いで開設し、事業を拡張していきました。

その後さまざまな変遷を経て、昭和 56 年には北上済生会病院と岩泉病院、岩泉病院付属の診療所の運営となりました。昭和 61 年には老老世帯や独居世帯の増加など、東北の山間過疎地である地域の実情を踏まえ、岩泉町に特別養護老人ホーム百楽苑を開設します。平成 27 年には東日本大震災により岩手県内で犠牲者が最大となった陸前高田市に済生会陸前高田診療所を開設し、仮設診療所での診療を開始します。平成 29 年には、在宅医療サービスの充実を図るため、北上済生会病院内に訪問看護ステーション北上済生会を開設します。

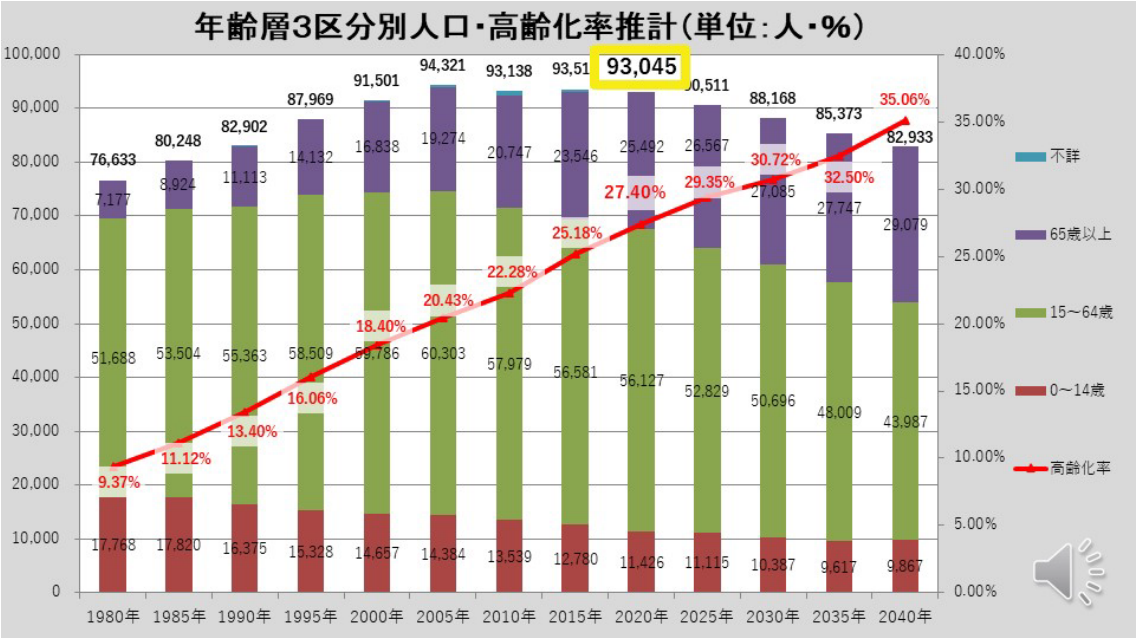
昭和 3 年に 5 代目伊藤治郎助氏は地方の医療機関の不備を背景に、和賀地方で初めての病院として黒沢尻病院を開設します。以来、昭和 11 年、6 代目伊藤治郎助氏より病院建物等の寄付を受け、済生会黒沢尻病院の開設に至りました。この病院は済生会精神により、地域の低所得者層に対する医療、無料診療、へき地医療などを実施し、まちの医療・福祉において先駆的役割を果たしてきました。

その後、昭和 39 年、総合病院として再発足し、昭和 50 年には北上済生会病院と改称します。以後、総合病院としての機能を果たすため、診療科の増設や救急医療体制の整備、母子周産期医療センター、回復期リハビリテーション病棟の設置など、診療体制の強化を図り、平成 2 年の病棟増改築を経て、令和 2 年 11 月、新病院へ移転し、市民に親しまれる病院としての役割を担い、現在に至っております。



北上市のあゆみについて、主に医療・保健・福祉・子育て関連から紹介します。

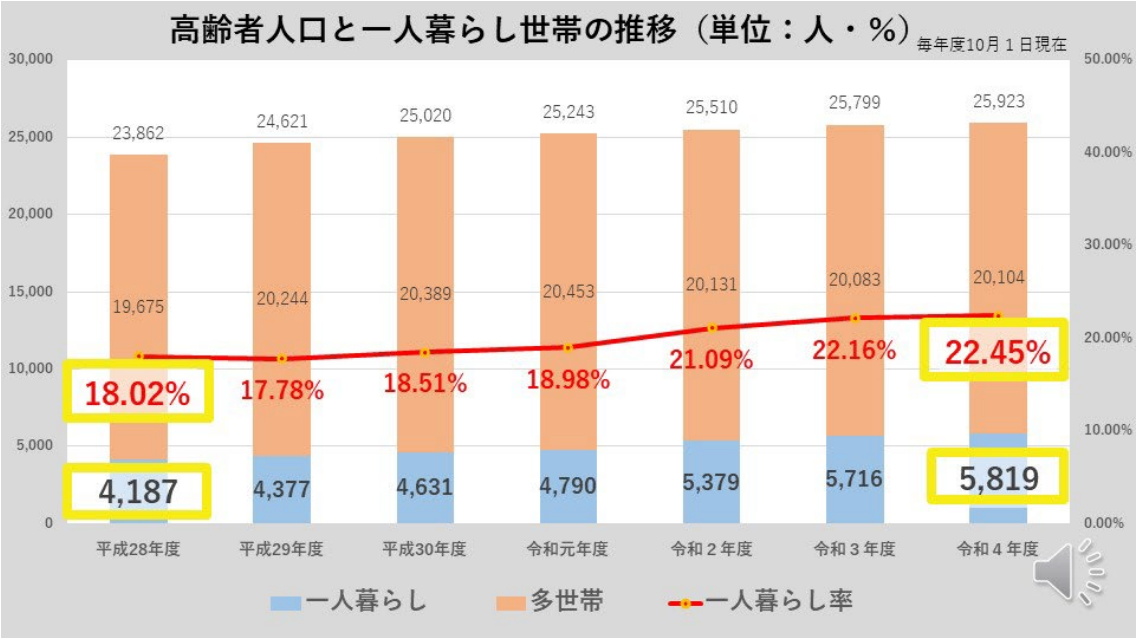
北上市は平成の大合併が始まる前の平成 3 年に、北上市、和賀町、江釣子村の 3 市町村が合併し、人口規模が岩手県内 2 番目の都市として誕生しました。合併して間もなく北上市がん対策基金条例を制定し、がんの予防やがん患者への在宅療養支援事業に活用され、古くから在宅看取り率が全国でもトップクラスのまちを象徴する全国初のホスピス北上方式、在宅緩和ケア事業が平成 6 年に始まりました。平成 21 年には北上市と花巻市にある両県立病院が統合し、岩手県立中部病院が市内に開院し、救急医療、高度医療の充実が図られました。また長年の市の懸案事項であった保健センターの充実と子育て支援拠点の整備に着手し、昨年 4 月に保健・子育て支援複合施設 hoKko(ほっこ)がオープンしました。



次に当市の人口についてですが、1991 年の合併当時、8 万人の規模であった人口は徐々に増加し、2000 年代は 9 万人台で推移し、2020 年の国勢調査結果では 9 万 3045 人となっています。

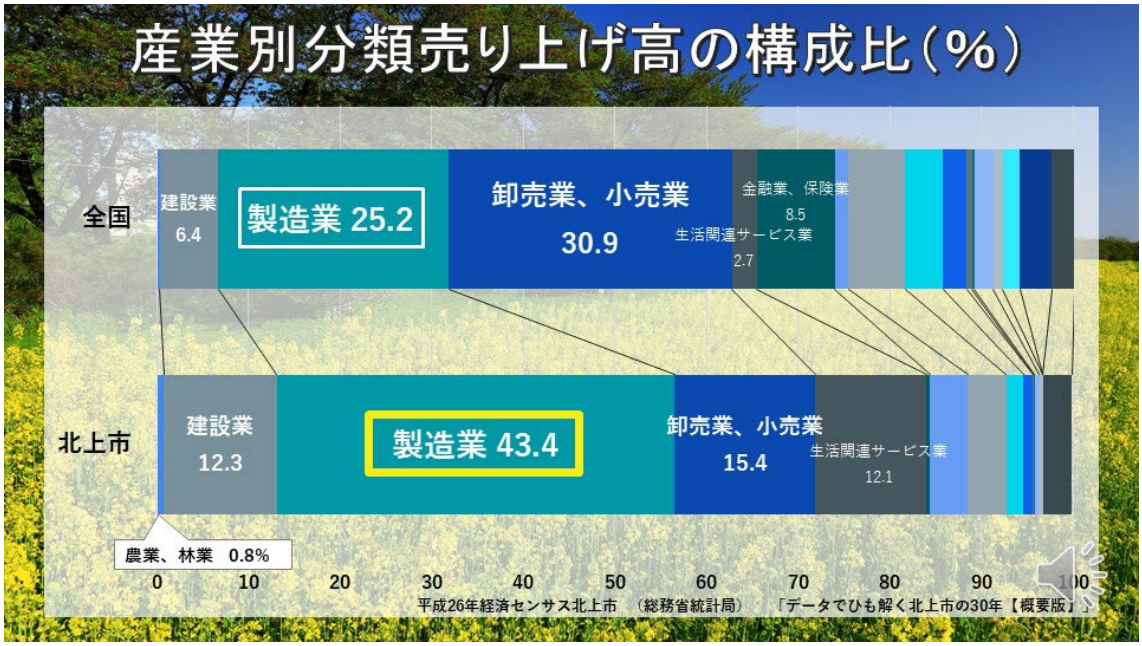
以降は社会保障・人口問題研究所の推計ですが、当市においても少子高齢化の波が押し寄せ、人口は徐々に減少する見込みとなっております。また赤の折れ線グラフのとおり、高齢化率は年々上昇しますが、現在は 28%となっており、全国平均と同程度で、岩手県内で比較すると 33 市町村のうち下から 3 番目と低い数値となっております。

次に社会増減と自然増減の観点から人口の推移を見てまいります。平成 3 年以降、工業団地への企業誘致が好調で、転入超過が続いていましたが、リーマンショックの影響もあり、一時的に転出超過となりました。しかし、ほどなく回復し、現在はキオクシア岩手工場の建設などにより転入者の増加傾向が続いています。一方、自然増減については、平成 20 年ころから出生数と死亡数が拮抗、逆転し、以降その差は広がっております。

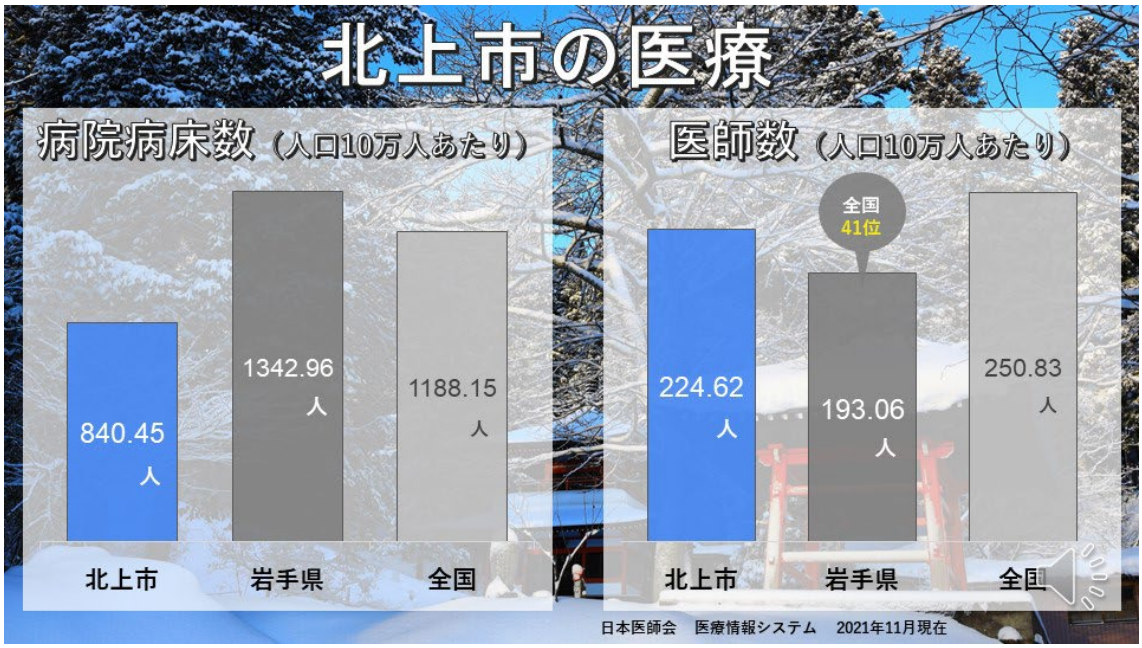


もう一つ、高齢者人口に絞って見てみると、高齢化率、および高齢者人口も年々増加傾向にあり、それと同時に一人暮らし世帯の割合も平成 28 年には 18%、4000 人規模であったのが、直近の令和 4 年 10 月 1 日現在は、22%台、5800 人ほどと増え続け、さまざまな課題とともに地域住民による支え合い活動の重要性が増していると考えられます。

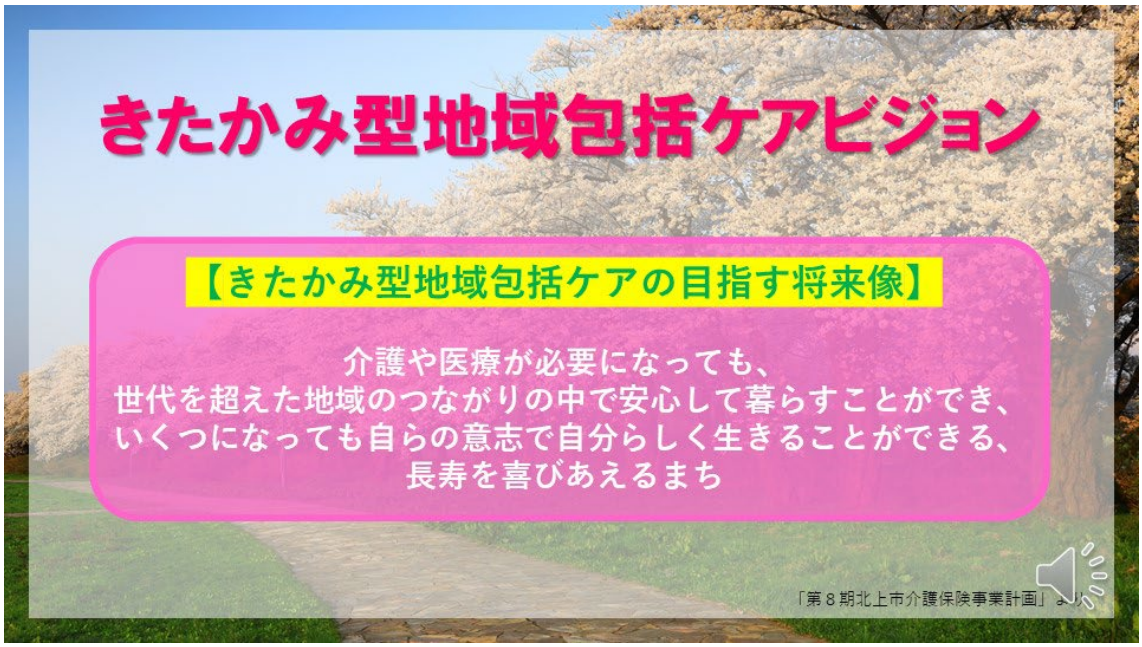
平成 16 年以降における北上市の生活保護世帯の累計構成比で見てみますと、疾病・障害者世帯が減少傾向にある一方、高齢者世帯は増加傾向にあり、ここでも急速な少子高齢化の社会情勢を鑑みることができます。



北上市の産業構造についても少し見ていきます。前段でも触れましたが、北上市内には全 10 カ所の工業団地や業務団地などが整備され、これまで 200 社以上の企業が立地しております。産業分類売上高の構成比で全国と比較しますと、製造業の割合が 43.4%と非常に高いことが特徴として挙げられます。



最後に医療の面について見てみます。病院病床数は全国や岩手県全体より少なく、この点からも在宅医療の充実が求められており、医師数においても当市は岩手県平均値を上回っているものの、岩手県は全国で 41 番目と非常に低い数値となっております。

本日、当市での開催にあたり、これまでご紹介してまいりました地域特性、そして生活困窮者問題を考えるとき、まさに「きたかみ型地域包括ケアビジョン」の将来像が、地域共生社会の構築とソーシャルインクルージョンの推進にマッチしているものと確信し、本シンポジウムのテーマとしたものです。

これをもちまして「岩手県済生会のあゆみとデータでみる“いわて北上”」の紹介を終わります。ご清聴ありがとうございました。